

2022 年秋学期語学留学/サザンクロス大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで紹介されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

週5日1日4コマで授業が行われる。先生は2人おり、月、火、水曜日と木、金曜日で交代で教えていただいた。授業内容はオーストラリアの歴史や文化、自然などを英語で学習するほか、スピーキングの練習としてディスカッションやスピードライトニングなどをした。英語4技能のうちスピーキングが特に鍛えられた。

発言することが多い授業でした。

先生が作成したプリントやパワーポイントに沿って授業が進められていた。

初めは英文を過去形にするなど、中学生レベルの英語から始まりました。授業形態はそうした文法に加えて、ロールプレイなどをして実用的な英語を学びました。例えば、レストランでの注文の仕方やショッピングでの店員との会話です。分からない単語があれば、英語で詳しくその単語の説明をしてくれるので理解することができました。

授業形態は、1時間半ほどの授業が3つに分けられていた。午前中1回10分休憩。昼ご飯休憩は30分月曜日から水曜日と木金で、先生が違っていた。進め方は、先生によって異なり月～水曜日の先生は、毎日、初めに発音の練習をしていた。

主に毎日文法、発音、スピーキングを使ったゲーム

授業は毎日8時半から14時15分までで3時限分ありました。毎日違う内容で、文法を学んだりオーストラリアの文化や動物のことを交えて単語を学習したりしました。また、水曜日はアクティビティ活動に出かけていました。サーフィンや森の散策、ふれあい動物園のようなものにも行きました。そこで授業で習った内容を実際に見たり聞いたりできたので身につけやすかったです。

発音練習、リーディング、動画視聴、スピーキング、文法、週末の出来事を書くライティング、プレゼンテーション、美術など

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

関西外大生のための10人編成。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

10人のみだったため先生との会話のキャッチボールがしやすく、みな自由に発言していた。1年生から3年生まで英語の能力もバラバラだったので、もっとレベルの高い授業を期待していたクラスメイトもいた。

みんな明るく積極的に発言し、楽しい雰囲気でした。

オープンな雰囲気ですべての意見が尊重される形だった。

クラスの雰囲気は、やはり外大生しかいないので、日本語を話してしまう場面もありました。あまり日本での授業の雰囲気と変わらないように思いました。しかし、少人数で同じ英語レベルの子達なので、わからないことを発言しやすく、英語を恥ずかしがらずに話すことができました。

先生は、より自由な感じで日本より発言がしやすいく感じた。

ゲームなどが多い

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

オーストラリアの歴史や先住民のアボリジニの方たちの文化を学習したことが印象的だった。

グループプレゼンテーション

オーストラリアの動物について

オーストラリアの伝統的な祭り、スイカ祭りについて。

授業で、オーストラリアのアクティビティについて一つトピックを選びプレゼンテーションをするというのがありました。私は全豪オープンテニスを選び、パワーポイントを使って1人で英語でプレゼンテーションをしました。これを機に、オーストラリアの文化やスポーツについて深く学ぶことができ、他のクラスメイトのプレゼンテーションでも知識を増やすことができました。

クラスで時々行っていた、1人の学生が黒板前に行き、その他の学生は絵の書いた紙が配られその絵を英語で説明し、正しいように絵が書けるように誘導する勉強が楽しく、語彙力と表現力の向上につながったと思う。

オーストラリアの祭りについてのグループプレゼンテーション

オーストラリアの動物たちのことをすごくおしえてくれました。アボリジニの歴史についてもたくさん学べました。オーストラリアの人たちは自分の文化や歴史、自然についてみんな詳しく、本当に自分の国が大好きなんだなと感じました。また、私たちが将来ワーキングホリデーに行きたいと伝えたと、履歴書の書き方についての授業もしてくれたことが印象深いです。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

先生が問いかけたことは答えに自信がなくてもとりあえず答えるようにしていた。また授業中わからない単語があったら先生に聞いて意味を英語で理解し、授業後に日本語で再度調べ答え合わせをした。

新しい単語はメモを取ったりしていた。

積極的に英語を使って話しかける。

先生の話していることを一言一句聞き逃さないようにしたこと、わからない単語があれば全て調べてメモしたこと

私は分からない単語があったら、必ずメモ帳に残すようにしていました。そして、授業後に意味を調べて、メモ帳は常に持ち歩きいつでも振り返れるようにしていました。帰国する頃には、そのメモ帳のページ全部使い切りました。分からない単語というのは一度ではなかなか覚えられないので、メモを取り繰り返し見返すことが大事だと感じました。

わからない単語があれば必ずメモをし、放課後に毎日単語を見直していた。わからないことがあればすぐ、質問をしていた。

毎日真剣に先生の話聞く

わからない単語を書き残して復習できるようにしていました。しかし、わからない単語だらけ過ぎて毎日辞書とにらめっこしていました。さらに、毎日同じような単語ばかりノートに書き残していたので単語だけでメモするのではなく熟語や文章でメモしておいてその場面と関連付けて記憶しやすいようにしていました。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの人でしたか。	通学手段	通学時間
1人	日本人	送迎	0-15分
1人	日本人	送迎	0-15分
1人		送迎	15-30分
1人	関西外大の日本人でした。	送迎	0-15分
1人	日本(福岡)	送迎	0-15分
1人	外大生	送迎	15-30分

1人	日本人	送迎	0-15分
1人	日本人	送迎	0-15分

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
ベッド、勉強机、ライト、たんす、テレビ、ティッシュ	時計、鏡、コロコロ
ベッド、収納、ハンガー、不自由のないように用意されていた。	特にない。
ベッドや机など生活に必要なものは全て用意されており、冷蔵庫やテレビ、キッチンもあった。	衣類、PC、お土産、入浴セット、オーストラリアドルなど
勉強机、クローゼット、ベッド	シャンプーリンスなど、ドライヤー、服、洗濯ネット、水ボトル
バスタオル、ベッド、服かけ	スリッパ、洗面具
ベッド 棚 ハンガー 延長コード	お風呂セット 変換プラグ 服 下着 タオル 常備薬 ドライヤー 水筒 ホストファミリーにお土産 文房具 通学リュック
ベッド、つくえ、テーブルライト、椅子／私からお願いして貸してもらったもの：ドライヤー、バスタオル	持って行ったもの：フェイスタオル、服、すし日本食、ノート、文房具、日焼け止め／現地で購入したもの：シャンプー、リンス、ボディソープ、歯磨きセット、保湿クリーム
机、ベッド、テレビ、棚、クローゼット、ティッシュ、ゴミ箱、ライト、延長コード	日用品、日本食、服、ドライヤーなど

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。
留学生用のシャワールームがあったこと。
湯舟がないこと
ホームステイ先でのルールでシャワーは一人5分で、オーストラリアは水がとても貴重なので食器も台所に水を溜めて食器を洗うことに初めは抵抗がありました。また、虫がとても多く私は気になったのですが、ホストファミリーはあまり気にしていないようでした。
土足
私のお世話になっていたお宅ではお風呂の使用時間に関するルールはなかったのですが、水道代が相当高いと学校からも言われていたのでなるべく素早く済ませるようにしていました。そのため洗濯も1週間に1回か2回程度で、服は汗をかいたりかなり汚れたものだけを洗濯していました。学校に行くだけなら汚れないので、3回くらいは同じものを着ていました。
泡のついたままの食器を洗い流さなかったこと。野菜は、基本的に蒸し野菜だった。お風呂に浸かれないこと、シャワーが取れないこと。洗濯が週に一回しかない。

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。
食事は好き嫌いを正直に伝えた方が良い。ホームステイ先ではできるだけリビングでファミリーと話した方が良い。オーストラリアは乾燥しているので保湿用品を持っていくと良い。日本食があればあるほど生活が充実する。
日本とは生活が違うのは当たり前だから自分でそれに適応できるようにする。
お手伝いはしなければならぬが、気は使いすぎない方がいい。自分の意思ははっきりと伝える
季節にもよりますが、どの季節でもパーカー一枚は持っていた方が気温差にも対応できると思います。また、虫除けやムヒは必ず持っておいた方がいいです。
食後はすぐに洗い物をする、感謝の気持ちは何か知ってもらうため、必ず毎回しっかりと伝えること、水回りは使った後掃除すること、ベッドメイキングを毎日すること。ホストファミリーと話す時は、毎日笑顔で自分からも積極的に相手の事について質問する。

困ったことは誰かに相談する。ホストファミリーと話す

何か要望があるならすぐにつたえたほうがいいです。お互いに快適ではないので、それで分かり合えないなら遠慮なくホストファミリーを変えてほしいとしかるべき場所に伝えればいいと思います。

日本食は日本から持っていき、夏でも長袖が必要なこと、消臭スプレーを持って行った方がいいです。

パソコンは持参しましたか。	携帯電話	インターネットは部屋から接続可能でしたか。	その際に費用はかかりましたか。
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	はい
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入		いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	LAN ケーブルで可能	いいえ
はい	日本で海外用携帯を購入・レンタルして持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	LAN ケーブルで可能	いいえ

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
送迎の関係もあり、ほとんどの時間を家で過ごした。家の犬の散歩や、ドッグランに行ったりして過ごした。ドッグランに行けば他の犬の飼い主と交流できるので、できる限りついて行った。	リズモアスクエアのショッピングモール。田舎のイオンモールのような感じ。学校の図書館、ジム、プール
クラブなどはなかったから、ホストファミリーと過ごすことが多かった。	日本でいうイオンみたいなショッピングセンター
外でできた友人との交流、地元の祭りへの参加等	ジム、図書館
大学では現地の大学生はオンライン授業のため、イベントなどが全く行われていませんでした。しかし、私たちのためにハロウィンとクリスマスはラウンジでお菓子を用意してくれていたりしました。そのスタッフの方が、いつも私たちのために色々企画してくれていました。大学ではなく、ホストファミリーとの休日は家で子供たちと遊んだり、たまに近くのスーパーに出かけて買い物をしました。	学内では、学生ラウンジでいつも過ごしていました。エアコンが効いていて快適でした。そこでパソコンを開いて映画を見たり、机がたくさんあるので勉強をしたりしました。キッチンも付いていて、好きにコーヒーや紅茶が飲めました。

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
外国人と電話ができるアプリでいろいろな国の人と話して、英語で話すことに慣れておいた。
明確な目標を決めたり、留学中にやりたいことを考えていた。
英会話の練習
留学前には、オーストラリアの生活常識や天気、食べ物調べて行きました。また、英語に困らないようにリスニングになれようと、外国人の YouTube を見たりして耳を慣らそうとしていました。

どのような持ち物が必要か、経験者の話などを見て後悔しないように用意した。出発前に同じ学校に留学する子たちで集まって情報交換をした。
単語力を上げたり、日常英会話のフレーズを頭に入れておく
ネットフリックスとかでナチュラルな英語の単語や発音を勉強した。
場所の把握、留学先の学校調べ、ホームステイの近くになにがあるか、ホームステイでの注意点など

留学前にしておけばよかったと思う準備
現地についてもっと調べておけばよかった。学校の状況や地域のニュースなど、現地についてから初めて知ると自分の想像と違ってショックを受けることがあった。
もっと自分がいく地域について調べること。
英語のドラマなどをみて耳を慣らしておけばよかった
やはり英語の勉強がまだまだ足りなかったと感じました。スピーキングする上で、単語を知らないと話すことができないし、聞き取れても意味を知らないとだめだと痛感しました。なので、もっと単語力をつけておくべきだったと思いました。
リスニング練習
もっと日常使う言葉を覚えておけばよかった。
英会話

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの
菓類、スキンケア用品、メイク用品、日本食(インスタント味噌汁、米、ふりかけ、お茶漬けの元、お菓子)ポケモンやキティちゃんなど日本のキャラクターが入ったお土産が喜ばれた。
お掃除セット、日本の調味料、私が作った日本の料理
レンチンご飯、抹茶のお菓子
ムヒと日焼け止めを持って行ってよかったと思いました。虫が多く、日本人は刺されやすいそうなのでムヒは欠かせませんでした。また紫外線がとても強く日焼け止めは毎日していました。喜ばれたものは日本のお菓子です。ホストファミリーに子供がいたこともあり、ハイチュウなどをとても喜んでいました。
着物、風邪のときのクスリ、喉を保湿するスプレーなどがあると便利
うまい棒は喜ばれた。
日焼け止め、オーストラリアのものは肌にあわなかったから。知育菓子は不思議そうにみて喜んでいて、けど美味しくはないみたいでした。
日本食、消臭スプレー、サランラップ、日本の有名なキャラクターのもの、ヒートテック、生理用品、シャンプーリンス

日本から持っていく必要のなかったもの	日本から持参すればよかったと思ったもの
服は必要最低限で良かった。現地の気候や雰囲気に合わせて購入した。	掃除用のコロコロなど掃除用品、衛生的価値観がホストファミリーと違った時あると役に立つ。犬を飼っている家庭が多いので抜け毛が本当に多い。
マスク	暖かい服、寒暖差が激しかった
特になし	SIM カード
大量の服です。向こうではおしゃれする必要はなく、ラフな格好なことが多く、必要な場合は近くのスーパーで5ドルほどでtシャツが売っていました。なので、かさばる服は最低限でいいと思います。	特になかったです。
コンタクトの洗浄液	葛根湯や龍角散。

シャンプー、リンス、ボディークリーム 現地ですぐに手に入る	日本食
お茶	お茶漬け

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくぐらい準備しましたか。
クレジットカード二枚と現金、クレジットカードが使えない店はほぼないに等しいと感じた。お祭りの出店や自動販売機などもクレジットが利用できる。現金は旅行をした際など、友達と割り勘をすることが多かったので持って行って正解だったと感じた。	クレジットカード上限 20 万 現金 4 万円
現金は 45000 円換金した。他はクレジットカードを使った。問題が起きた時のためにカードは三枚。	カード額は 30 万程度。現金は 45000 円
現金とクレジットカード	現金は 7 万円、カードは 40 万円ほど
もともと持っていたクレジットカードと、七万円ほど金券ショップで換金しました。	クレジットカードは上限 20 万、現金は七万円です。
クレジットカード 現金	クレジットカード上限30万 現金5万
7 万円現金でもって行ってあとはクレジット。ちょうどいい感じだった。現金はほとんどいらなと思う。	クレジットの上限は 20 万で、10 月に 6 万円、11 月に 8 万円、12 月に 4 万円、現金が最初に用意していた 7 万円を使いました。
クレジット、現金	クレジットカード上限 10 万、現金 4 万

現地で支払った住居費と食費を教えてください。
食費は友達と出かけた際に払う分だけで基本はホストファミリーが用意してくれた。一回の食費は 2000 円程度。
旅行で 1 万もしないほどこしか払っていません。食費も基本はホストファミリーが負担してくれるので、お菓子を買ったりたまに友達と出掛けて外食した時は現金を使っていましたが、数万円です。
お菓子代
食費は自分たちで出かけたときや、お菓子の分を払っていて、私は食べるのが好きなので全部で 8~9 万円ぐらい使ったと思います。
5 万

テキスト代と通学費はそれぞれいくぐらいかかりましたか。
授業はすべてプリントだったためテキスト代はなし
費用はかかっていません。
なし

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくぐらいかかりましたか。
13 万程度
しっかり計算していないので覚えていないが 10 万はかかっていそう。
12、3万円くらい
お菓子などが高いので毎日買っていたら、旅費などもありますが換金してきた七万円は割とすぐ無くなりました。
旅行に15万ほど 服に1万5000円ほど

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析

誰にでも話しかけられる精神力とコミュニケーション能力が身についた。

聞き取りは一度言われたら理解できる程度にはなったと思う。スピーキングについては成長はしたとを感じるが自分が話したいことをすべていうことができなかった。

聞き取りはまあまあできたが、自分の思いを英語に変換することが難しい状態で留学。約2か月の短い留学だったが、最後にはかなり意思を伝えられるようになった。語学力はテストの点数が伸びたので明確に上がっている。

リスニング力は上がったと思いますが、2ヶ月半ではスピーキングはそんなに上がったと感じませんでした。私の勉強不足もありますが、なんて言ったらいいんだろうと悩むことがたくさんありました。しかし、恐れずにとりあえず発言することは心がけるようになり、買い物に行ってもレジはスムーズに会話できるようになりました。

現地の人がよく使う単語を使うようにしたので、語学力はいくらか上がった。コミュニケーション能力は、現地で生活をするにより会話の流れがわかるようになったので、人に話しかけやすくなり向上したと思う。

語学力に関しては、リスニング力が上がった。コミュニケーション能力は、簡単な会話はできるが、話していくうちに複雑な話になると理解できなかった。

留学前の目標とその達成度

同世代の友達をもっと作る予定だったが学校には学生がおらず、田舎なので車がないと移動できないため街に出て交流があまりできなかったのが悔しい。

留学前の目標は、日本でできない体験をする、怖がらない恐れない、自分から積極的に挑戦する、毎日日記をする、後悔のない二か月半にするといった内容だった。私は全体的に達成できたと思う。毎日の日記も続けることができたし、乗馬やスカイダイビングにも挑戦することができた。

留学前は外国人の友達を作ることを目標としていましたが、大学に外国人が全然いないためそれは難しく、ホストファミリーとたくさん会話することを心がけました。夜はできるだけリビングにいて、少しずつ会話を増やすことができました。来た当初よりも話題も増えて、達成できたと思っています。

この留学で、自分が今後どのようなことに取り組んでいきたいか考える機会にしようと思っていたが、自分はあと2年間外大で英語の勉強することを決める機会になった。

ペラペラになること。ペラペラにはなれなかった。達成度は低い。

留学を通しての成長ポイント

問題を解決する能力が身についたと感じる。自分自身で行動してもしなくても時間は過ぎてゆくことを思うと、他人にどう思われるかなんて気にせず行動することができた。

今まで以上に自立できたと思う。また、なんでも挑戦することの大切さや諦めない気持ちがより一層強くなった。

チャレンジ精神が特に鍛えられた。公園にいる知らない学生に話しかけてみたり、デパートですれ違う人に話しかけたりした。

英語を話すことを恐れないということや、自分の意見をはっきり発言することに対しては留学前と大きく変わった部分だと思っています。外国人の方は自己主張をはっきりしていて、以前の私は周りに合わせることが多く英語を話すこともどこか恥ずかしさを感じていました。しかしその気持ちが無くなり、自分の意見をちゃんと伝えることができるようになったと思います。

しっかり相手に伝わるように自己主張ができるようになった。文化を知り対応していく力が身に付いた。

語学力はもちろんだが、メンタルもすごく成長した。

今まで周りに支えられて生活してきたこともいあった。周りに頼れる人はいないし、決断は全部自分自身でしなければならないし、それを英語で伝えなければならない、最初は自分のつたない英語が伝わらなかつたらと怖かったが、そんなことも気にしていられなくなり思ったことをしっかり伝える努力をするようになりました。心が強くなったことが一番成長ポイントです。

常にハブニングを予想して行動できる能力

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

モチベーションが上がった。現地の人の物事に対する考え方や生き方が、私にとっても合っていると感じ、自分も海外で仕事ができるくらいの英語力を身につけようと思った。

留学中は隙間時間を作らないようにして自分からホストファミリーに話しかけてモチベーションをあげていた。帰国後も留学中の自分を想像してそれをモチベーションにして自分の課題をこなしている。

留学前は2ヶ月じゃあまり何も変わらないだろうと思っていた。到着後、あまりの話せなさにモチベーションがかなり高まる。1ヶ月ほど経った頃、学生が大学にいなさすぎてやる気が下がる。留学後は TOEIC の勉強に励む。

留学を通して、より自身の英語力のなさを痛感してもっと勉強しなきゃと思えました。また話せなかつた場面で、この時私が英語を話せたら、もっとコミュニケーションが取れてもっと楽しい空間になったのになど後悔する場面が何度かありました。だからこそ、これからのモチベーションになり春からまた外大に通うので三号館に行って外国人留学生に話しかけに行こうと思っています。

留学前は、留学に行けば勝手に語学力が向上すると勘違いしていた。留学中は自分の英語力に幻滅し、必死に話についていった。留学後は、ペラペラになることを目標に、日々勉強している。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

バックパッカーで出会った人と観光をしたとき。知り合ってからすぐに遊びに誘われ、女1人男性3人で安全な人かどうかわからず最初は本当に怖かった。しかし交流する機会が希少だったため機会を逃すまいと誘いに乗った。結果、現地を案内してもらい良い関係が築けた。

ネイティブと話す機会は絶対無駄にしないように全力で話した。

バーベキューを公園でしていたら隣でバスを走っている若い学生たちがいて、勇気を振り絞った。

やはり英語でのプレゼンテーションでは、1人で英語で説明するというのが私にとってはとてもプレッシャーで不安だらけでした。しかし早めに準備をして、発音にも気をつけて家でも練習をしました。そのプレゼンテーションを発表して、先生から高い評価をもらって、その英語の表現いいねなど言われた時はとても嬉しかったです。

初めて現地の友達とでかけたとき、相手を楽しくなくと思わないようにコミュニケーションを頑張った。

自分たちだけで旅行に行ったとき。

初めてホストマザーにいきたいところをつたえたときです。自分の行ったところはパスもほとんどないし、電車は全くないしで出かけようと思うとホストマザーに連れて行ってもらわないといけなくて、結構遠い行先地を伝えるときはいかにも目的地が楽しいよ！だからつれてって！一緒に行こ！！とあつちもその気になるようなテンションと英語で伝えることを頑張りました。

柔道教室に行った時に、子どもたちと頑張って英語を使って柔道のことを色々伝えたこと。

留学先大学の良かった点

先生が皆とても親切でフレンドリーだったこと。先生方は授業外でも話し相手になってくださり、学生生活をサポートしていただけで心強かった。学校や生活面すべての相談に乗っていただいた。施設は自然が溢れるほどあり勉強するモチベーションになった。

私たちを楽しませようとしてくれた。

先生はとても親身になってくれて、悩み事聞いてくれる人ばかりだったのでその面は良かったと思っています。

先生が全員親切だったこと。なんでも相談できたし、たくさん助けてくれた。

毎週水曜日に、フリーチケットがあり無料でカフェで買えるのが良かった。毎週水曜日に、校外学習などがあり楽しかった。